

優秀賞

たった四文字の「おはよう」

宮崎県 飫肥中学校 三年

竹脇 心美

私が通る通学路には、登校を見守るため地域の方が立ってくださっています。

「おはようございます。」とあいさつすると、

「おはよう！今日も元気に頑張れよ！」

と、あいさつを返してくださいます。また、今ではちょっとした世間話をしたり、進路の相談にのってくださったりもしています。このあいさつがどんなにありがたいことか理解したのは、あるできごとがきっかけでした。

私は中学1年生のとき、小学生の頃と環境や生活のリズムが変わり、学校に行くのが辛くなって、登校できなくなってしまう時期がありました。そして、小学生の頃は元気に確実にできていた地域の方へのあいさつも、できなくなっていました。

そのときは特に、登校を見守ってくださっている地域の方に、自分は覚えられてないと思いつつも、あいさつができなくなったことを知られたくなくて、早足で通り過ぎたり、ほかの生徒と話しているときに通り過ぎたりしていました。

でも、必ず後ろから、元気なあいさつが聞こえてきます。その元気な、背中を押してくれそうなあいさつに応えられなくなった自分が憎くてたまりませんでした。そして、ついに私は学校に行くことができなくなっていました。

小学校の日曜参観の日、お母さんに散歩を勧められ、小学生の弟について行き、いつも見守ってくださる地域の方がおられる場所まで散歩してみることにしました。私が小学生だった頃には、見守ってくださる地域の方は平日のみ活動しているようだったので、いつもの場所にはいないだろう、と思っていました。

しかし、いつもの場所にその方が立っていて、気づかれないように帰ろうとしていた私の名前を呼びました。私は涙が出そうになりました。まさか、自分の顔と名前を覚えてくれていたなんて。すると、その方は私にかけより、

「おはよう。」と、ただそれだけ、にこにここと眩^{まぶ}しい笑顔で、でも、どこか心配してくれているような顔で言いました。私はその一言だけで、嬉しくてたまりませんでした。それと同時に、今まで地域の方を避けていたことがどれだけ失礼だったかと、自分がとても恥ずかしく、いまいましく感じました。私は自然と、「おはようございます。」とあいさつの言葉が出ました。

このできごとがあり、学校に行くことができるようになりました。たった四文字の「おはよう」という言葉だけで、どれだけ救われたことか。

それから私は、あいさつの重要さを知り、私もあいさつをすることで誰かを救っていたらいいな、と考えています。